シティ・ミーティング（ワイ！ワイ！GIKAI）で出された主な意見

【総務常任委員会】

日時：令和7年1月17日（金）
場所：北星高等学校ボランティア部

	高校生	委員
	議題１：本校は今年度の「みえの防災大賞」に選ばれました。四日市市独自の防災取組を表彰する防災アワードを提案しますが、皆さんのご意見をお聞かせください。	
1	Ａ．大きなモチベーションになっており、防災甲子園に出て関西の防災の取り組みをしている方々と交流する機会があり、今後の改善点も見つかり、自然と取組内容が良くなった。	Ｑ．御校の取り組みは、防災まちづくり大賞で総務大臣賞を受賞し、その後、令和６年防災功労者内閣総理大臣表彰を受けている。このことは、大きな励みになっているのか。
2	Ｑ．四日市市にも防災に関する賞があれば、モチベーションの向上につながると思うが、どう考えるか。	Ａ．市内でも地域により災害の特性に違いがあり、一概に優劣をつけることができない。しかし、地区防災組織連絡協議会では、１年に２地区ずつ取組事例発表会をしており、情報の共有とモチベーションの維持を図っている。 Ａ．笹川では高校の近隣の住宅街には高齢者が多いので、学生が地域の防災訓練に参加して、地域の人とのつながりを作っていた。高校生が見本を見せると小中学生がそれのまねをするので、見本を見せる重要性を感じた。地域にとって頼もしい存在というのは、とてもありがたい。今後も後輩たちに引き継いでいってほしい。 Ａ．高校生が地域を巻き込んで防災意識を高めていくことは素晴らしいので続けてほしい。橋北地区では、地域が主体となって、橋北中学校の授業の一環として、防災訓練をしている。
3	Ａ．元々は地域の清掃活動や障害者スポーツのボッチャの手伝いをしていた。ここ数年で清掃活動に防災の要素を加えた。生徒から自主的に活動範囲を広げた経緯がある。	Ｑ．ボランティア部はどんなきっかけで作られたのか。
	議題２：私たちは「命の矢印」で高台への水平避難を目指していますが、市内の学校では上階への垂直避難を設定している学校もあります。議員の皆さんのご意見を伺います。	
4	Ａ．小学校低学年の生徒など逃げることに時間がかかる子どもたちは、近隣の中学校や高校と協力して、小学生をリアカーに乗せて一緒に逃げるなど、地域で協力すればいいと考える。 Ａ．自分が小学生だった時はそもそも避難訓練が少ないと感じた。もっと習慣化しておかないと、いざという時に逃げられないと思う。大人に先導されるだけではなく、子どもだけで逃げられるような訓練をすべきだと思う。	Ｑ．山側にある学校では津波の被害を考えていないので意識が低い傾向にある。反対に海側にある学校は影響が大きいため、関心が高い。市内でも意識の差があることについて、どう考えるか。
5	Ａ．受け身の人が多いと思っている。学生なら先生から避難訓練をすると言われたから訓練をするので、自主性が低いと思う。	Ｑ．避難訓練に参加しない若い人も多いので意識を変えていく必要もあるが、どう考えるか。
6	Ａ．全国で大規模地震が発生し、国民レベルで津波に関する意識は非常に高いと思う。	Ｑ．本市の地震発生から津波が来るまでの時間は約77分と言われている。その時間にやるべきことは学校でも教えてもらっていると思うが、それを思い出したり、意識し直す機会は少ないと感じているが、どう考えるか。 子ども達が中心に動く必要があることにも同意する。小中学校と違い、高校は自宅から離れたところへ通学している人もいるが、その高校生が自宅で被災した時には、自宅周辺の小中学校の生徒から見たら、高校生が頼りになる上級生ということになる。自宅周辺の災害特性についてもよく勉強してほしい。
	議題３：四日市市は災害時に民間企業と連携した公助の仕組みはありますか。また、第3コンビナートの防災対策について教えてください。	
7	Ｑ．四日市市は災害時に民間企業と連携した公助の仕組みはあるか。また、第３コンビナートの防災対策について教えてほしい。	Ａ．コンビナートの防災計画は三重県が作成しているが、国や市など様々な機関が関わっている。第３コンビナートは企業が独自に対策をしており、消防庁主催の石油コンビナート等における自主防災組織の技能コンテストでは、１位から３位まで本市の自主防災組織が受賞している。公助の連携では、他県や他自治体と連携し、相互に援助する体制を作っている。本市の沿岸部は津波だけでなく液状化も心配である。今回の能登半島地震ではトイレの問題も課題になったが、本市はマンホールトイレを整備している。 Ａ．本市は現在128団体と連携協定を結んでいる。
8	Ｑ．能登半島地震の被災地に行った時に、電話会社の充電器が大量にあった。現代はスマホが重要だと考えており、本市は発災時にどのように電力を供給するのか。	Ａ．電話会社や電力会社は重要なライフラインである。それぞれの事業者の責任や役目として、ライフラインを復旧する役目があるので、そちらに任せることになる。東日本大震災のように広域で深刻な被害が出る場合には復旧までに時間がかかる。
	議題４：外国人避難所支援研修に参加した際、女性消防団の活動について学びました。四日市市は女性消防団が盛んですが、連携の仕組みはありますか。また、高校生が消防団に参加できる仕組みはありますか。	
9	Ａ．以前、消火訓練の体験をしたので、それ以来、消防団の活動に興味がある。 Ａ．父親が消防団に入っていて、小さい頃から活動を見ていたので、とても身近に感じている。女性消防団があると知って、社会人になったら参加したいと思っている。	Ｑ．消防団に興味があったり、参加したいと思うか。
10	Ａ．活動に夢があるということを知ってもらうとか、消防団は男性が入るというイメージもあるので、そもそも女性消防団があることを知ってもらう必要がある。	Ｑ．どんな広報をしたら若い人に女性消防団に入ろうと思ってもらえるか。
	議題５：私たちの「命の矢印」は四日市市の地形的特徴からどこでも役立つと思いますが、全市的、全県的な取組に広げるためのアドバイスはありますか。	
11	Ｑ．「命の矢印」を全市的、全県的な取組に広げるためのアドバイスはあるか。	Ａ．活動を発信をすることで、もっと周りに知ってもらうと他の団体や地域の人が、命の矢印を取り入れてくれるかもしれない。そのように徐々に広げていくといいのではないか。 Ａ．命の矢印はどの地域でもできる可能性がある取組だが、地域特性を考えた上で取り入れるかを判断する必要があるため、市全域でいきなり導入することは難しい。しかし、色んなところで発信することで、色んな人がこの取り組みを広げてくれるので、そのような発信を続けてほしい。国からの表彰してもらった取り組みなので自信を持って取り組んでほしい。
12	Ｑ．高校生とか若い人に知ってもらうためにはどうしたらいいか。	Ａ．ＳＮＳを活用することが一番ではないか。長い説明文は要らないので、まずは目を引く言葉を使って、取り組みを紹介してみてはどうか。
13	Ｑ．地域との取組で「高校生と一緒に活動できて刺激をもらえた」という感想をもらったこともあるので、デジタルとアナログと両方の発信が必要だと感じているが、どうか。	Ａ．色んな年代の人がかかわるテーマなので、年代が一番使いやすいツールに合わせた発信が必要だと考える。
14	Ａ．予算が少ないので、工面することに苦慮している。地域の防災隊にも負担してもらっているが、活動資金が不足している状態が続いている。	Ｑ．この取り組みはどこから予算を出しているのか。
15	Ｑ．以前、この取り組みに予算をつけて全市的に取り入れてほしいと市役所に提案したが、「学校の取り組みとして続けた方がいいのではないか」と言われた。全市的な需要はある取組だと思っているし、学校内だけでなく地域とのつながりもでき、内閣府から表彰も受けた活動なので、学校内で留めておくことはもったいないと思っている。市役所の立場も理解するが、活動資金が不足していることに困っている。	Ａ．当委員会の所管には危機管理統括部や財政経営部がある。学生との意見交換で出た意見として、担当部局に考え方を確認したいと思う。各地区には連合自治会があって、その中には防災に関する予算があったと思う。富田地区だけではなく、各地区にこの取り組みを知ってもらい、取り入れたいと思ってもらうことで市全体の防災力も上がるので、広報も続けてほしい。

	高校生	委員
	その他	
16	Ａ．普段は学校周辺の清掃活動をしており、加えて防災の取り組みをしており、地域との防災訓練や「命の矢印」の配付をしている。最近は、多言語での命の矢印を作った。四日市市は三重県で外国人の居住者が一番多く、すごく反応が良かった。	Ｑ．ボランティア部の活動は防災に関する取り組みが中心なのか。
17	（意見）今日の意見交換で垂直避難か水平避難かの二択ではなく、地域特性や事情に応じて両方を使い分けていく必要があると分かった。 （意見）地域に貢献したいという思いが昔から強かった。今日の意見交換のおかげで、日頃から自分ができることを探していきたいと感じた。	